

スケボー遊び場 拡大中

東京五輪の新競技スケートボードを楽しめる施設「スケートパーク」の開業が各地で相次いでいる。新型コロナウイルスの感染リスクが比較的低い屋外で遊べることもあり、スケボー人気は上昇、自治体が整備した施設は4年間で100か所から243か所が増えた。一方で、街中の禁止エリアで滑走するなどのトラブルも目立っている。

4年で倍増 ■路上ではトラブルも

スケーターが空中で上半身をひねったり、手すりの上を滑ったり。大技が決まると、周りは「トントントン」とボードをたたき称賛する。4月にオープンした



茨城県笠間市の「ムラサキパークかさま」には週末、約100人が訪れる。約1か月前に始めたという、さいたま市の会社員(49)は「知らない人同士で技を教え合ったりできて楽しい。若い人と交流が広がる」と魅力を語る。

広さ4600平方メートルの施設は国内最大級。県と笠間市が7億4000万円かけ整備した。半球状の滑走面や市街地の階段などをイメージしたコースでは、本場米国の選手団が合宿を行う予定だ。本格的なコースを滑走することもあって、

施設の初心者向けスクールはキャンセル待ちが出るほどだ。

A

ただ、路上での滑走や騒音によるトラブルも起きている。横浜市では昨秋以降、滑走目的で商業施設に侵入した15人が軽犯罪法違反(禁止場所立ち入り)容疑で、山口県岩国市では、国名勝「錦帯橋」に擦り傷をつけた少年が3月に文化財保護法違反容疑で書類送検されるなどした。佐賀市のJR佐賀駅前では今春、信号待ちの人にスケートボードがぶつかるトラブルがあり、駅前広場に「スケボー禁止」の看板が設置された。

B

駐車場や路上で遊ぶスケーターの騒音苦情が寄せられていた三重県松阪市では19年に専用施設を新設した結果、苦情が減ったという。NPO法人「横浜スケ

ートボード協会」は「スケーターも住民も互いに安心できる場所が必要」と、横浜市内の公園などの一角に滑走スペースを整備するよう求める署名をサイトで募っている。

大阪体育大の原田宗彦学長は「スケボーはストリート文化として街中で楽しまれてきた歴史があるが、安全を考えれば、施設は必要」と話す。

(2021年6月30日 読売新聞夕刊より)

1 スケボーが楽しめるように作られた施設のことを7文字で書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--

2 点線で囲まれた(A)(B)の部分を記事で紹介すると、どのようなことを伝えることができますか。それぞれについて1つずつ選び、番号で答えましょう。

- ① 専用の滑走施設を作れば、トラブルが減る可能性があること
- ② 人気の高まりとともに、全国各地でトラブルが起きていること
- ③ トラブルを起こすのは一部の若者なので、心配はいらないということ
- ④ スケボーをする人はみな、マナーが悪いということ
- ⑤ 屋外施設は、新型コロナウイルスの感染リスクが低いということ

A	B
---	---

3 次の説明について、正しいものに○、誤っているものに×を書きましょう。

- () 三重県松阪市の施設は、国内最大規模。初心者向けスクールはキャンセル待ちが出ている。
- () 横浜市では署名活動の結果、市営公園内にスケボーの滑走スペースができた。
- () JR佐賀駅前では、現在スケボーの滑走が禁止されている。
- () 茨城県の「ムラサキパークかさま」では、マナーを破る人がいると「トントントン」とボードをたたいて注意する。